

相棒—劇場版—

2008(平成20)年5月3日鑑賞(ホクテンザ1)

★★★



監督=和泉聖治/出演=水谷豊/寺脇康文/鈴木砂羽/高樹沙耶/岸部一徳/木村佳乃/西村雅彦/原田龍二/松下由樹/津川雅彦/平幹二郎/西田敏行/本仮屋ユイカ/柏原崇(東映配給/2008年日本映画/117分)

……処刑リストにもとづく連続殺人とマラソン大会での爆破予告のスリルとサスペンスだけなら凡庸なアクションドラマ。しかしそこに、邦人の見殺し事件と外務省の機密文書「Sファイル」が絡んでくると……？ はじめて観た『相棒—劇場版—』のスケールのデカさにビックリ！ チェスを介した犯人との「対話」は少しつくりすぎ(?)だが、社会性豊かな問題提起には十分な満足感が……。

意外と面白い！

テレビドラマは全く観なくなっていた私は、水谷豊主演の『相棒』という人気シリーズがあることは知っていても、1度もそれを観たことがなかった。したがって、その劇場版が公開されることになり、試写の案内をもらっていたが、正直なところ優先順位を下位としていたため試写に行く時間もとれなかった。ところが、ゴールデンウィーク後半の5月3日～6日の4日間も仕事づけの毎日となったため、「仕事の一環」として、ホクテンザで『相棒—劇場版—』を観ることに。しかしてその感想は、意外と面白い！

劇場版の看板に偽りなし！

私がTVドラマやその劇場版を好きになれないのは、安易なストーリー構成とアホバカギャグの多さのため……？ もっとも、私が中・高校生の頃は、『007』シリーズとは全く別の路線を模索した『0011』シリーズのロバート・ヴォーンとデイヴィッド・マッカラムの名コンビが一世を風靡しており、私も夢中になってそれを観ていた

のだから、今ドキの中・高校生や若者たちのTVドラマ好きをバカにするのはナンセンス。

今回はじめて『相棒—劇場版—』のパンフレット（と言っても、これは2008年5月12日付相棒新聞という体裁のもの）を読んでわかったのは、『相棒』シリーズは変幻自在で「コメディタッチから本格ミステリー、ホラーもあればタイムサスペンス、社会正義を追究したほろ苦いものまで、およそどんな題材でも包括してしまう懐の広さ」、つまり多様性が魅力だということ。こりゃ、いわば自民党みたいなもの……？

今回の劇場版は、表面上は東京ビッグシティマラソンをターゲットとした爆発テロの予告をめぐるスリルとサスペンスがメインだが、実質は5年前に南米エルドビア共和国で起きた人質事件とそれに絡む外務省の機密文書「Sファイル」をめぐる政界の裏に隠された闇がテーマ……？ したがって、登場人物も大人気の『躍る大捜査線』シリーズとは異なり、御厨紀實彦元総理大臣（平幹二郎）や瀬戸内米蔵元法務大臣（津川雅彦）が単なる「お飾り」ではない存在感を示している。さらに面白いのは、御厨内閣時の外務大臣の娘である片山雛子衆議院議員（木村佳乃）が、「外務省は伏魔殿！」との名セリフで外務省官僚と徹底的に対決した田中真紀子衆議院議員を彷彿させる重要な役割を果たすこと。TVシリーズは観たことがないから全く知らないが、これくらいのスケールになると社会派ドラマとしての構成力が十分に備わるから、劇場版の看板に偽りなし！

ネタはあの人質事件！

世界的に紛争地域が広がり、また紛争が深刻化するにつれて、日本人ジャーナリストが取材中に殺されたり、NGOの日本人活動家やボランティアが海外での活動中に拉致されて人質とされ、莫大な身代金を要求される事件が増加している。例えば、ミャンマーでは2007年9月にジャーナリストの長井健治氏が射殺される事件が発生したし、イランでは2007年10月に大学生が拉致され身代金を要求される事件が発生した。

この映画が描く、5年前にエルドビア共和国で起きた人質事件で拉致され殺害されたのは木佐原渡（細山田隆人）。しかし、政府やマスコミは、また学者や多くのコメンテーターたちは、日本国政府の退去勧告を無視して難民救済活動に従事していた渡の自己責任（自業自得）と決めつけその行動を非難した。そのため、日本に住む父親

の木佐原芳信（西田敏行）と妹のやよい（本仮屋ユイカ）はマスコミからの総バッシングを受けて大変な状況に。

なるほど、『相棒—劇場版—』のネタは、2007年10月に起きたあの人質事件にあったわけだ。もっとも、そこからオリジナルな脚本を広げていくところが、『相棒』シリーズの変幻自在で面白いところ……？

木佐原渡の親友、塩谷和範がキーマン！

学生時代は「闘士」でも、就職が決まると一転して日和ってしまう輩が多いのは古今東西を問わず共通。渡の親友だった塩谷和範（柏原崇）はどうもそんな人物だったらしい。つまり、渡を積極的に NGO 活動に勧誘した塩谷が本来はエルドビア共和国に入ってボランティア活動に従事すべきだったのだが、大企業への就職が決まった彼が日和ったため、代わりに渡がエルドビア共和国での難民救済活動に従事していたわけだ。もちろん、結果的に渡がゲリラ組織に拉致され殺害されたことに塩谷は何の責任もないのだが、以降塩谷が自分を失い、全てを投げうって渡の復讐のために行動したのはうなずける話。

すると、映画の冒頭でテレビ塔に人気キャスターの仲島孝臣が吊るされたのは、仲島が渡に対して批判的なニュースを流したことの報復……？ また、雛子議員が小包爆弾のターゲットとされたのも、またテレビのコメンテーターとして活躍していた美容整形医安永聡子が殺害されたのも、彼女たちが公に渡を批判していたことへの報復……？ すると、その犯人は……？

『DEATH NOTE』のパクリ……？

近時の若者の最大の話題作は『DEATH NOTE（前編）』（06年）と『DEATH NOTE the Last name』（06年）。この映画の魅力はLとキラという2人のキャラだが、時代にマッチしたのは何とんでもなくパソコンを駆使した犯罪だということ。

かつて『羊たちの沈黙』（91年）が大きな話題を呼んだが、これはレクター博士の底知れぬ知識が魅力の源泉だった。しかし、パソコンの情報量はそれをはるかに超えているから、犯罪のパターンは多様化し、犯罪の楽しみ方も変幻自在……？ それは、3月19日に観た『ブラックサイト』（08年）でも同じ……？

そんな『DEATH NOTE』のアイデアをパクってはダメだが、会員制ウェブサイト

による「処刑リスト」という発想には、若干その傾向が……？

後半のキーマンは木佐原芳信に！

映画前半は、キーマン塩谷による東京ビッグシティマラソンをターゲットとした爆破予告の帰趨だが、後半は渡の父親である木佐原芳信がキーマンになる。映画の前半、ジャーナリストの仲島や衆議院議員の雛子、そして美容整形医の安永のところに出入りしていたため捜査上のキーウーマンとなったのは、20歳くらいの若い女性、つまりやよい。やよいは「処刑リスト」に載せられたターゲットを次々と処刑していく犯人が塩谷だと理解し、その防止のため懸命に動いていたのだが、さてやよいの父親の木佐原芳信は……？ 『相棒—劇場版—』の脚本は練りに練られたものだから結構複雑。したがって、芳信は渡の死亡を悲しむ父親という存在だけではなく、想定範囲を大きく超える重要な役割を果たすことに。そのあたりは是非あなた自身の目で。

見モノは、あまりにも有能すぎるため首脳部から忌避され、警視庁特命係に左遷された『相棒』の主人公杉下右京（水谷豊）と元大学教授であった芳信との静かな知能戦！ さて、末期ガンのため余命いくばくもないことを悟った芳信が、真に目指したものは……？

チェスを通した「対話」は……？

日本ではチェス人口が少ないから「チェックメイト」という言葉はあまりポピュラーではなかったが、『DEATH NOTE』でキラが使用して以降、がぜん有名な言葉に。したがって、この点でも『相棒—劇場版—』は『DEATH NOTE』のパクリの面が……？

この映画で重要な意味を持つのが「ステイルメイト」というチェス用語だが、さてその意味は……？ また、将棋や囲碁と同じようにチェスの盤面を「f 5」とか「d 4」などアルファベットと数字で表示することもあまり知られていないが、犯行現場に残されたこんな表示は何を意味するの……？ そんな風に考えると、いつも冷静沈着に状況を分析し、捜査の対象を絞り込んでいく杉下がいろいろとチェスの原理を説明しているのは、実は相棒に対するよりも観客に対するもの……？

連続殺人犯そして爆破予告犯と杉下とのチェスを介した「対話」は面白いが、一方ではなぜそんな手の込んだ細工を？ という疑問も……。さらに踏み込んで疑問点を

提示すれば、芳信が裁判で息子の真の姿を訴えたいというのであれば、ここまで話をこねくり回さなくてもできるのでは……？ まあそんなことを言っちゃ、壮大なドラマが成り立たなくなってしまうから、それは私の胸の内にしまっておくが、そこらあたりが脚本の弱点……？

警視庁も、弁護士も、記者も……

さすがに劇場版ともなれば、警視庁特命係の杉下をはじめとするレギュラー陣だけではなく、犯人捜査に従事する警視庁のたくさんのスタッフたちが登場する。その他、あらぬ疑いをかけられて「任意同行」を求められたやよいの弁護人として猛烈に抗議する、ちょっと太め(?)だがカッコいい人権派弁護士武藤かおり(松下由樹)、ちょっと怪しげな院内紙記者鹿手袋啓介(西村雅彦)など、多種多様な人物が登場するから、彼ら、彼女らのキャラと役割にも十分注目を!

おっと「相棒」を忘れては……?

おっと、大切な相棒を忘れていた。それは、『相棒』というタイトルを成り立たせている、クールな杉下に対するもう1人の少し熱血漢亀山薫(寺脇康文)。杉下は『0011』における知的で冷静なイリア・クリアキンとよく似たキャラだが、亀山は『0011』のナポレオン・ソロとはかなり異質で、とにかく体育会系の肉体派!

知的作業は杉下、その指示にしたがって肉体を駆使して突っ走るのは亀山とその役割分担は明確。そして、さすが特命係をたった2人で仕切っているだけあって、亀山の身体をフルに使った活躍もお見事! こんな立派な相棒であれば、今後の2人の活躍もフォーエバー……?

2008(平成20)年5月6日記